

## 0～3歳児の描画過程で子ども間の模倣は出現するか —1年間の記録から検討する—

奥 美 佐 子

### I はじめに

筆者はこれまで、描画過程における子ども間の模倣の意味についての研究を、描画の発達段階や模写能力の発達から鑑みて、対象を4, 5歳児に設定して調査をしてきた。描画過程における子ども間の模倣がその前後の年齢にも出現することは、2006年7月～2007年1月に、小学校教諭、幼稚園教諭、保育所保育士を対象として、子どもの描画過程における模倣について行った質問紙による調査から、確認することができる。<sup>1)</sup> この質問紙で0～2歳児の描画過程に模倣があるか、という設問をしたところ、保育所保育士346名からの回答は、あるが41%、ないが37%、わからないが22%であった。41%が「ある」と答えた実際に3歳未満児を保育している保育士は、0～2歳児でも描画過程で子ども間の模倣が出現していると考えていると言ってよい。

「ある」と答えた保育士への口頭による調査では、保育のプロセスで3歳児未満の描画過程における子ども間の模倣については、「あれは、模倣をしていたんだと思う」「同じ様に手を動かしていたので、模倣だと思う」「あの子どもたちには日ごろから模倣関係があるから」と言う、保育士の経験的な捉え方で確認していた。

本稿は、上記質問紙による調査に先立って、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣が出現するものと仮定して、2006年4月から0～3歳児の1年間の描画過程における子ども間の模倣の記録を、この時期の子ども描画過程における子ども間の模倣の実体を示すとともに、4, 5歳児の子ども間の模倣と比較検討して、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣の特徴を明らかにしたいと考えた。

### II 調査の手続き

#### 1. 質問紙による調査結果

2006年7月～2007年1月、質問紙によるアンケート調査を保育所保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を対象に行った保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の描画過程における模倣の意識調査の際に立てた設問で、「0～2歳児はなぐりがきが中心の時期ですが、この時期にも子ども同士のなぐりがきの模倣はあると思いますか」というものである。質問の対象は保育士346名、幼稚園教諭405名である。子ども間の模倣が「ある」または「ない」または「わからない」を選択する方法を採った。

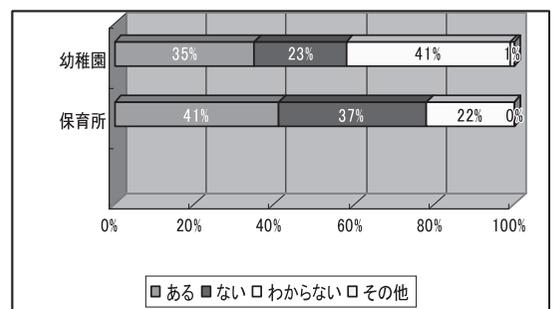


図1 0～2歳児のなぐりがきに模倣はあるか

結果は「ある」が幼稚園教諭35%、保育士41%、「ない」が幼稚園教諭23%、保育士37%、「わからない」は幼稚園教諭41%、保育士22%であった。幼稚園教諭、保育士ともに「ある」と答えた人が「ない」と答えた人より多く、幼稚園1.52倍、保育士1.08倍であった。保育士のほうが「ある」「ない」とも回答率が高く、「わからない」答えた人の回答が幼稚園のほうが多いのは0～2歳児の在籍が無いが、満3歳児のみ扱ったことがあるためである(回答に注釈が付けられていた)。また、0～2歳児を担当したことが無い保育士も「わからない」と答えた人が多い。中には回答欄以外の空間に「1歳児までは無いと思う」「画面に描かれた線の模倣ではなく、手の動きを真似ているのではな

いか」と書かれたものがあつた。現場の保育士の意見からは、断言できないが模倣はあるのではないかと考えていることがわかる(図1)。

## 2. 0～3歳児という時期

この時期の子どもの描画は、スクリブルからピクチャーへの移行期である。また模倣についてもJ. ピアジェの「児童の知能発達段階」では感覚運動的段階(0～2歳)から、前操作段階(2～7歳)への移行期であるとされる。

描画の発達段階では、「なぐりがき・スクリブルの時期」が最も初期の描画の段階として設定されている。この時期はかなり幅があり、0歳～5歳まで幅がある。H. エングは5歳までを、V・ローウェンフェルド、S・パートは4歳まで、副島ハマ、G・V. トーマス/A・M. J. シルクが3歳まで、林部伝七、R. ケログ、H・ガードナーが2歳までとする。時代が下るほど、なぐりがき期が終了する時期は低年齢化し、2, 3歳時期と設定している。描画の発達段階の区分では0～2歳児の時期は「なぐりがき・スクリブルの時期」である。

H・ガードナーらはなぐりがきの終了時期を2歳までとしている。3歳時期は「様式的な描画を描く時期」として、V・ローウェンフェルド、H. リードが用いたS・パートの区分、幼稚園教育要領(文部省1965)、副島ハマ(副島については児童期の資料はない)についても初期の描画の時代に続くこの時期を3, 4歳～8, 9歳に区分している。1980年以降になると子どもの描画についての新たな研究が発表され、H・ガードナー1980、G・V. トーマス/A・M. J. シルク1993の発達区分では初期的描画活動としてなぐりがき、あるいはスクリブルの時期に続く表現形式や様式が出現し様式的な表現を形成する年齢区分については、3歳～8歳としている。N・R. スミスは、子どもの描画に意味の生成を重視した上での区分であるが5歳～11歳を経験を描く時期と設定し、その中で5～7歳は単純なイメージを描く時期、7～9歳は豊かなシンボルが出現する時期として単純な幾何学的図形を用いて描く時期としている。また、環境によっては2歳時期からこのような表現が出る場合があるとも言う。<sup>2)</sup>

3歳児の時期はなぐりがきの終了時期であり、

様式的な描画の開始時期である。

J. ピアジェによる模倣の発達では、第一段階～第六段階を設定し、第一段階～第五段階までが感覚運動段階、前操作段階が第六段階にあたる。<sup>3)</sup>

第一段階：反射による準備の段階

第二段階：散発的模倣の段階

第三段階：すでに子ども自身の発声の一部となった音とか、すでに自分に見えるやり方で子どもがなしたことがある運動を組織的に模倣する段階

第四段階：子どものからだの見えない運動を模倣する段階

第五段階：新しいモデルを模倣する段階

第六段階：表象的模倣のはじめと、模倣のより以上の発達

以上から、2～3歳の時期が描画、模倣ともに発達の分水嶺と考えるのが妥当である。そこで本調査では調査の検討を、0～2歳児と3歳児に分けて行うこととした。

## 3. 描画過程における子ども間の模倣の見方

質問紙への回答に、「他児の手の動きを見て同じ様に動かしている」との記述が見られた。特に0～2歳児の模倣については、子ども間の描画からの視覚的刺激による情報摂取という観点を中心としてだけでは対応できないのではないかと懸念があつた。

K保育園の0歳児を担当する保育者との対話の中で、「今年入園してきた子どもはなかなかなぐりがきをし始めません。きっと家庭で字を書いたり絵を描いたりするモデルがないので、模倣できなかったのではないかと思います。」という報告があつた。保育園へ入園してくる0歳児は、早かれ遅かれこのクラスにいる間になぐりがきを自然にはじめていくのがこれまでの姿だった。対処法としてなぐりがきが始まる環境構成をすることになり、なぐりがきをする子どもの姿を見せたり保育者が言葉を発しながらなぐりがきのようなことをして見せたりして、興味をもたせたとのことである。

Ka保育園で筆者が2歳児の保育をしたときに、元気になぐりがきができることを願って、腕

を上下に大きく動かしたアクションとともに言葉を添えて「元気、元気で描こうね」と言ってなぐりがきをしたことがあった。その時のなぐりがきは100%の子どもが上下の大きな弓形に往復した、ストロークのしっかりしたなぐりがきをした。2歳児クラスではもちろん連続線や円のスクリブル、細かく途切れた線で紙面を埋める、頭足人のようなフォルムを描くなど、通常は多様な表現であふれていた。手の動きを模倣して、「みんな元気な」なぐりがきになり、なぐりがきに身体的な動きの模倣が反映されて驚いた。そしてそれは2歳児が保育者のした通りにして、同じ様な線を描かせてしまったという苦い経験でもあった。

この事例から、4、5歳児でも、言語という要因が情報を伝播させ、結果的に同じ様な表現が発生するという結果を招くことがあるが、なぐりがきの始まりには環境的に模倣ができる要因が必要であると考えられる時期や、身体の動きを見て動きの模倣がなぐりがきの線に反映するなど、心身の発達の初期的な時期には、視覚的情報を中心として摂取して自己の描画に反映する4、5歳児の描画過程の模倣とは違う現実があるのではないかと推測された。

そこで、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣を捉えるために、前半(4月～10月)は、描画の結果(作品)から模倣を読み取り、後半(11月～3月)は活動のプロセスと作品の双方から描画を検討した。

- ・ 視覚的な情報摂取(線や形の模倣)
- ・ 行為や腕の動きからの情報摂取(行為の模倣)
- ・ 擬音や言葉からの情報摂取(言語からのイメージの模倣)

を観察の観点に据えた。特に行為の模倣について、この時期の子どもの描画過程における子ども間の模倣を捉える新たな観点として加えた部分である。前半は、作品から視覚的な情報摂取(線や形の模倣)を読み取ることが中心であるが、質問紙による0～2歳児における描画過程の子ども間の模倣の回答にもこのような見解が見られたことから、後半では行為や腕の動きからの情報摂取(行為の模倣)にも注目した。言語については、4、5歳児同様、その他の要因として挙げられるものである。

#### 4. 調査の概要

調査用紙(資料参照)を0～3歳児の担任保育士に配布し、2006年度、保育士が意図的に設定した時間に描いた絵(自由画帳以外に描いた描画)について、模倣が発生したものについて記録することとした。この時期の子どもの描画活動であることから一斉に描く機会は少なく、特に0、1歳児は個別か小人数で描くことが多いので、単純な発想で言えば、模倣の機会は少ないと考えられる。

保育所における調査の概要は以下の通りである。

調査期間：2006年4月～2007年3月

調査対象：京都市内私立M園0、1歳児、京都市内私立K保育園1、2、3歳児(この2園は同じ法人の園で、同一の敷地内に棟を別にして設置されている。保育士や入所児の交流は日常的にあり、保育の内容や質も保証されている。)

調査方法：2006年4月～10月については、作品から模倣の有無を読み取る。0～2歳児のなぐりがきについては、描画過程の様子で印象的なものについては、それも加味して模倣の有無をみる。

2006年11月～2007年3月については、描画のプロセスにおける子どもの様子を見ながら、描画過程における模倣を採集する。

これらを所定の用紙(資料参照)に記録するとともに作品を写真に収め資料とする。

調査結果は、以下の方法で検討を進める。まず、作成した資料から模倣の出現の有無と出現した模倣の状況、情報の摂取状況を見る。3歳児については模倣の3 Type<sup>4)</sup>に分類する。次に0～3歳児ともに模倣度<sup>5)</sup>を算出する。それらを検討し、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣の特色を抽出する。すべてのデータの検討は、担任の保育士とともに相互に確認を取りつつ行うこととする。

0～3歳児の描画過程で子ども間の模倣は出現するか

表1 0～2歳児のなぐりがきにおける模倣の情報摂取の状況

情報摂取の状況	Type1'	出現例	0歳児	1歳児	2歳児
腕の動きを見て真似て描く	a		①、②		
音を聞いて真似て描く	b	トントン	①	④	
擬音にして表しやすい点や線を描く	c	トントン、ゲルゲル、シュー	①	④、⑥	
保育者に受容されたものを真似る	e	先生見て・描けたね		⑥	
見立てや意味づけした言葉を聞き、その線や形(まる)を真似て描き、同じ意味づけや見立てをする	d	〇〇描いてん、走ります、線路描いてん、お月様みたい		③、⑤	⑦、⑧

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 0～2歳児

##### 1) 記録の分析

2006年度の0～2歳児のなぐりがきにおける模倣の出現の有無と出現した模倣の状況は表1、資料1～3の通りである。なお、表および表中、Oはオリジナル(模範となった子ども)、Cはコピー(模倣をした子ども)を示す。また、0歳児、1歳児、2歳児の記録は、それぞれの年齢別クラスでのものであり、記録時には当該年齢を超えている場合があるのはそのためである。

表2～3を通じて次のことが読み取れる。

- ・0歳児、1歳児ともに4月から秋にかけての1期、2期、3期に模倣が採集できなかったのは、0歳についてはなぐりがきをまだしていないと言う理由と、0、1歳児では集団でなぐりがきをすることがほとんどなく、興味をもったときに子どもと保育士が1対1で描くか、もしくは2、3人が同じ場で描くことが多いためである。
- ・模倣が出現した場合のオリジナルとコピーの子どもの月齢では、0歳児では事例①、②ともにオリジナルのほうが月齢が高い(2/2)。1歳児ではオリジナルの月齢が高いものは事例④、⑤(2/4)、コピーが高いものは⑥(1/4)、同じ月齢のものが③(1/4)である。2歳児ではオリジナルが高いものが事例⑦、⑧(2/2)である。0～2歳児では月齢の低い子どもが高い子どもを模倣することが多いとはいえるが、分母が大きくないので断定はできない。
- ・描画における模倣の情報は視覚から摂取し、視覚によって確認されるのであるが、0～2歳時期の模倣の状況に以下のような特徴が含まれている。

腕の動きを見て真似て描く…事例①、②

音を聞いて真似て描く：トントン…事例①、④

擬音にして表しやすい点や線を描く：トントン、ゲルゲル、シュー…事例①、④、⑥

見立てや意味づけした言葉を聞き、その線や形(まる)を真似て描き、同じ意味づけや見立てをする：〇〇描いてんねん、走ります、線路描いてん、お月様みたい…事例③、⑤、⑦、⑧

保育者に受容されたものを真似る：先生見て・描けたね…事例⑥

- ・模倣関係には日常生活の中での人間関係、模倣する側の自信のなさが関係しているものがある。事例③、④、⑤、⑦

次に、模倣の類型および模倣度から検討してみる。筆者は2002年に4、5歳児の描画過程における模倣の類型を以下のように分類した。<sup>6)</sup>

Type 1： 描画開始期の情報ソース

Type 2： 表現ツールの情報収集

Type 3： 相互模倣を目的とした情報交換

この類型に0～2歳児のなぐりがきにおける模倣のTypeを適用するとType 1に相当が、0～2歳児のなぐりがきにおける模倣の情報は視覚的刺激だけではなく多様な器官を使っての情報収集をしている。これはJ.ピアジェの模倣の発達段階から見ても第三から第五段階の模倣に当たると考えられる。

そこで、これらをType 1'とした上でa～eの細目を設定した。

- Type 1' {
- a 腕の動きを見て
  - b 音を聞いて
  - c 擬音にして表しやすい点や線を音と視覚の両方から

- d 見立てや意味づけした言葉に対応する線や形 (まる); c の進展型と考えられる
- e 保育者に受容されたもの; この項目については 0~2 歳独自ではないが大人の存在が大きい時期であるため加えた

4, 5歳児で設定した模倣度の項目は以下の通りである。

- ・時間 (初期; 5、中期; 3、終期; 1)
  - ・構図への影響 (ほぼ100% (左右反転の場合を含む); 5、複数部位; 3、単体; 1)
  - ・コピーの質
    - ：フォルム (相似; 5、やや相似; 変形; 1)
    - ：色彩 (相似; 5、やや相似; 3、変化; 1)
    - ：描画材 (同種; 5、ある程度同種; 3、変化; 1)
    - ：位置 (同位置; 5、やや変化; 3、変化; 1)
  - ・加工の有無 (意図的な加工はない; 5、若干あり; 3、あり; 1) \*③の変形等より意図的なもの。
  - ・描画の展開 (なし; 5、ややあり; 3、あり; 1)
    - \*情報摂取後、描画に独自の展開があった場合。
  - ・情報の種類 (視覚的情報; 5、遊びのツール; 3、イメージ形成の情報; 1)
- この項目ではフォルムそのものが形成されてい

ない時期の子どもが多いことから 0~2 歳児には適応できない部分があり、項目を 3 歳未満児の状況に合うように改訂した。

【0~2 歳児の模倣度に関する項目】

- ・時間 (初期; 5、中期; 3、終期; 1)
- ・空間における描画の位置 (同位置; 5、やや変化; 3、変化; 1)
- ・点・線などの種類 (相似; 5、やや相似; 3、変化; 1)
- ・経時の変化 (なし; 5、ややあり; 3、あり; 1)
- ・情報の種類 (言語と視覚; 5、音と視覚; 3、音や動き; 1)
- ・色彩 (相似; 5、やや相似; 3、変化; 1)

この項目から模倣度を算出したところ、事例①、②は 0 歳児の事例で模倣度は 84、事例③~⑥は 1 歳児の事例で模倣度は 80、92、100、⑦、⑧は 2 歳児の事例で模倣度は 100であった。0 歳児や 1 歳児については手の動きや空間認知など発達の条件が 3 歳以上児より大きく関与しているため、模倣であるか発達のなものであるのかの見極めが難しいが、年齢が上がるに従って模倣度は高くなると言える (表 2)。

2) まとめ

4, 5歳児は描画過程における模倣が視覚的な情報として、大きくて明快なフォルムやインパクトのあるパーツを中心に摂取した。テーマのある描

表 2 0~2 歳児のなぐりがきにおける模倣度

	事例①	事例②	事例③	事例④	事例⑤	事例⑥	事例⑦	事例⑧
時間	5	5	5	5	5	5	5	5
空間における描画の位置	5	5	1	5	5	5	5	5
点・線などの種類	5	5	5	5	5	5	5	5
経時の変化	5	5	3	5	5	5	5	5
情報の種類	1	1	5	3	3	5	5	5
色彩	0		5	0	0	0	0	0
模倣度	84	84	80	92	100	100	100	100

\*色彩については、0~2 歳児ではあらかじめ準備された色を使うことが多く、選択していない場合がある。

これについては色彩の項目を 0 として、項目はノーカウントとする。

画活動ではテーマに沿った表現とイメージが展開して表現が広がる部分がある。後者では4, 5歳児の模倣では言葉の情報を視覚に変換して表現に反映する。

0～2歳児のなぐりがきにおける模倣の調査からわかったことは、第一に発達の傾向が見えると言うことである。Type 1'として類型を作成したように、描画であるので情報を視覚的に捉えることは基本的なことであるが、0～2歳児の情報摂取の方法には、視覚以外に動きや音、言葉など五感を働かせて情報を摂取している姿が浮かぶ。0歳児は動きや音を、1歳児は音や言葉を、2歳児は言葉をそれぞれなぐりがきの点や線と結びつけて摂取する情報としている。この意味で発達の傾向が見えるのである。また、模倣度についても、年齢が上がるに従って高くなる傾向がある。視覚的要素の高まりが関与しているのではないだろうか。

次にたとえ0歳児であっても無意味なものを模倣しようとしないうことである。チンパンジーが道具を使う手や体の動きの模倣はできるが、何ももたない動きの模倣は困難であるという明和和子の報告(118)がある。人は何も持たない動きの模倣をするのであるが、描画においてその子にとって何らかの意味をもたないものを真似することはしないのではないかと考える。意味あるものはリズムであったり、視覚的な刺激であったり、表象として意味のあるものであったり、シンボリックなもの

であったりすることである。時にはそれが人間関係がもたらすものであることも読み取れるが、模倣の対象となる情報は0～2歳の子どもにとって何らかの意味をもってそこに現れる点や線や形であることがわかった。

## 2. 3歳児

### 1) 記録の分析

2006年度の3歳児の描画における模倣の出現の有無と出現した模倣の状況はに示した。なお、表および資料中、Oはオリジナル(模範となった子ども)、Cはコピー(模倣をした子ども)を示す。また3歳児の記録は2006年4月～2007年3月のものであり、いわゆる3歳児クラスに所属する子どもである。(事例⑨～⑰)

表4から次のことが読み取れる。

- ・4月～9月までの1, 2期(2006年度の)はなぐりがきの延長線上での描画が中心であった。クラス全般が線を描いたり、塗ったりすることが中心である場合、ほぼ全員がこの傾向を示す。これを模倣と呼ぶことは躊躇われる。
- ・オリジナルとコピーの関係を月齢で見ると、オリジナルがコピーより月齢が高いのは事例⑩、⑮(2/9)、コピーのほうが高いのは事例⑨、⑬、⑯(3/9)、同月齢は事例⑫、⑰、(2/9)オリジナルが1人とコピーが2人の場合が事例⑪、⑭(2/9)で、双方ともコピーの1人がオリジナルより低月例、もう1人が高月齢

表3 3歳児の描画過程における模倣度

	事例⑨	事例⑩	事例⑪	事例⑫	事例⑬	事例⑭	事例⑮	事例⑯	事例⑰
時間	5	3	3	5	5	5	5	5	5
構図	3	1	1	5	5	5	3	3	1
フォルム	3	3	3	3	5	3	1	3	3
色彩	5	5	5	5	5	5	1	3	5
描画材	5	5	5	5	5	5	5	5	5
位置	3	3	5	5	5	5	3	3	1
加工の有無	3	5	3	5	3	3	3	3	5
描画の展開	5	5	5	5	3	3	3	3	5
情報の種類	5	5	5	5	5	5	5	5	5
模倣度	82	78	78	96	91	87	64	73	78

Type 1 Type 2 Type 2 Type 3 Type 1 Type 1 Type 1 Type 3 Type 1

であった。0～2歳児よりオリジナルとコピーの関係に発達の傾向はほとんどないと言える。

- ・3歳児の模倣の状況の記録からは、視覚的情報として画面に描かれたフォルムや「もの」を情報として摂取し、表現に反映したことがわかる。J.ピアジェによる模倣の発達段階での第六段階、後発的模倣、象徴的模倣が現れる時期だということが記憶や象徴性の発達から確認できる。

画面上の視覚的情報を摂取する…事例⑨、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰。

言葉による情報を摂取する。交換する場合もある：信号あったな・うん、そうや…事例⑩

- ・模倣関係が出現した子どもは自信がなかったり、日常生活でも一緒に過ごす傾向があることや、同一視指向が見られる。必ずしも上位下位の関係は固定していない…事例⑩、⑫、⑮、⑰

3歳児の描画過程における模倣は描画材の種類によっても影響される。Type 1の模倣では絵の具を使用した場合、画面のほとんどを最初の構図が占めるか同じフォルムを繰り返し描き、発達のにもまだ細かい展開を描いたりしない場合が多く、描き出しで空間が決定している。マーカーやパスを使用した場合は、色数も自由に使用し展開もしやすいように見える。Type 3は2例とも日常における人間関係も模倣的であり、4、5歳児のゲーム的な感覚よりも遊びの共有もしくは同一視的行動の結果だと考えられる。

模倣度についても3歳児では4、5歳児で使用した項目で対応できる。

4、5歳児ではTypeにより模倣度に変化が現れ、Type 1、Type 3は模倣度が高く、Type 2は比較的低かった。3歳児ではType 2の値から見てType 1、Type 3ともに高い事例があるが逆に事例⑮のように64とかなり低いものが出現した。また、Type 3は3歳児では事例⑫のように4、5歳児ではType 1より模倣度が高い数値であったが、事例⑯73という数値も出現した。この原因の一つには描画の発達における3歳児のおかれた時期が関係している。なぐりがきからフォルムの生成への段階に子どもたちは居て、過渡的な多様な表現が混在している。表3の構図とフォルムのポイントが低いのはそのためであろう。

## 2) まとめ

3歳児の描画過程における模倣の特徴は、第一に0～2歳児とは大きく異なり視覚情報を中心として摂取することである。これは、4、5歳児の描画過程における模倣の特徴とほぼ一致する。はっきりと他児の画面を見ていること、テーマがある場合はそれに添った表現を選択していることがわかる。従って模倣の類型も3つのTypeに分類することが可能であった。

第二にこの時期は、なぐりがきからフォルムの生成への過渡期であるためType内における模倣度のばらつきがでた。特に構図とフォルムに顕著に現れ、模倣にも描画の発達のな影響が現れることが確認された。

## 3. 0～3歳児の描画過程における模倣の特質

### 1) 保育者の意識と「模倣」の現実

0～2歳児のなぐりがきにおける子ども間の模倣についてのアンケート結果では模倣が「ある」(幼稚園教諭35%、保育士41%)が「ない」(幼稚園教諭23%、保育士37%)を若干上回っていた。描画過程の模倣に対して肯定的に捉えた保育士は0歳児担当50%(否26%)、1歳児担当74%(否22%)、2歳児担当66%(否12%)で否定的な回答を大きく上回っている。因みに3歳児以上の担当保育士の意識は肯定群3歳児72%、4歳児61%、5歳児63%で3歳を含む年齢担当の意識より4、5歳児担当者のほうが模倣について否定的な見方が多い。担当年齢と意識との関連が必ずしもあるとはいえないが、幼稚園教諭にも同様のことが言える。また、模倣への対処も保育所では3歳児が29%と極端に低いが、やはり4、5歳児(55、60%)への対処率が高い。

2006年度1年間の保育現場の調査の結果、0歳児ではお誕生日以前の乳児には環境の条件的にもなぐりがきにおける子ども間の模倣の記録はない。0歳児クラスの子どもの、後半模倣の記録が記載された。0歳児にもなぐりがきの過程での模倣はあり、対処することがあるということになる。現実には、1、2歳児のなぐりがきの過程で子ども間の模倣はある、という結果が出た。

2) 0～3歳児の描画過程における模倣の特質

① 0～2歳児

3歳未満児のなぐりがきにおける子ども間の模倣は存在する。ただし3歳以上児とは違う性質を有する。3歳以上児は視覚が中心的な情報であるが、3歳未満児では情報を視覚的に捉えることは基本的なことであるが、視覚以外に動きや音、言葉など五感を働かせて情報を摂取している。0歳児は動きや音を、1歳児は音や言葉を、2歳児は言葉をそれぞれなぐりがきの点や線と結びつけて摂取する情報とする。加えて、模倣の対象となる情報は0～2歳の子どもにとって何らかの意味が付随した点・線・形等である。

② 3歳児

3歳児の描画過程における模倣で摂取する情報は視覚中心である。3歳児はオリジナルの画面を見る、テーマがある場合はそれに添った表現を選択する。この時期はなぐりがきからフォルムの生成への過渡期であるため、摂取した情報を4、5歳児のような模写能力を持って自分の表現に反映できない場面がある。それは特に構図とフォルムに顕著に現れ、模倣にも描画の発達的な影響がある。

③ 4、5歳児との模倣度の比較

事例から得た模倣度を3歳児と4、5歳児を比較すると年齢と模倣度は反比例することがわかる(図2)。描画の発達的な特徴から見て、摂取する情報量によるところがあると考えられる。

描画過程における模倣は、3歳児を境目として3歳未満児と3歳以上児とでは情報摂取のために主として働かせる器官に違いがある。3歳未満児は五感をフルに働かせて摂取しており、3歳以上児は視覚中心、聴覚からの摂取も見られた。筆者の調査からは出現しなかったが、これについては、H.リードが『芸術による教育』でとりあげたシルル・パートの発達区分の「なぐりがき(スクリブル)」2歳～5歳を、さらに4区分に分けている中の3区分に「模倣のなぐりがき」からみると、この時期は「支配的な関心は依然として筋肉にあるが、腕の動きから手首の動きに替わっており、手首の動きも指の動きに替わっていく傾向が

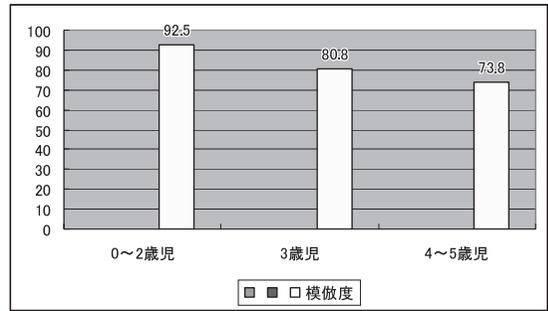


図2 模倣度の年代別アベレージ

見られる。それは通常、大人の絵を描く動きをまねしようとする努力によるものであり、大人が描いたものだけでなく、大人の手や指の筋肉の動きまで真似しようとする。<sup>7)</sup> 本節の調査で3歳未満児のなぐりがきの過程で、他児の手や腕の動きを見て模倣したという報告があったが、3歳以上児においても同様に、視覚的な情報収集のみならずどのようにするのかをみる、経過を捉えるための身体的な動きに注目して情報とする子どもの姿を見ることができるといえる。3歳以上でも身体的な動きの情報摂取にも注目する必要がある。

何よりも重視すべきは子どもの情報摂取に向かう意思であろう。3歳以上児では摂取の目的や意図が描画の意図に沿っている。0～2歳児においても無意味な模倣はない。0～5歳児の描画における模倣は大変意図的であると考えられる。

最後に3歳および3歳未満児の描画過程における子ども間の模倣は、4、5歳児以上に生活的な環境、特に人間関係がもたらすケースが出現しやすいことを付け加えておきたい。

【注および引用文献】

- 1) 奥美佐子著「保育者・教育者の子どもの描画過程における模倣の意識」2007年 名古屋柳城短期大学研究紀要 第27号 pp.
- 2) 奥美佐子著「学童期の描画における模倣の意味-描画の発達段階から探る-」2006年 名古屋柳城短期大学研究紀要 第28号 pp.79-94
- 3) J. ピアジェ著 大伴茂訳『模倣の心理学』1988年 黎明書房 pp.114、115
- 4) 奥美佐子著「幼児の描画過程における模倣の

- 効果」保育学研究第42巻第2号 日本保育学会2004年 p.61
- 5) 奥美佐子著「幼児の描画における模倣の研究」  
大学美術教育学会誌第36号 大学美術教育学会 2004年 p.116-118
- 6) 奥美佐子著「幼児の描画過程における模倣の力」日本保育学会第55回大会発表論文集 2002年 日本保育学会 p.450
- 7) 明和和子著『なぜ「まね」をするのか』河出書房新社 2004年 pp.103-108

## 【資料】記録

資料1 0歳児のなぐりがきにおける模倣の記録 M園

2006年度	模倣の有無	模倣の情報		備考
		子どもの情報	模倣の状況	
4月～12月	無			
1月12日	有①	O: K.M1 (女児) 1.8歳 C: K.M2 (女児) 1.4歳	・M2はM1がペンでトントンと点で描いている様子を見て、同じようにトントン…と描き出していた。	
12日	②	O: N.K1 (男児) 1.7歳 C: N.K2 (男児) 1.4歳	・K2はK1が左右に大きく腕を動かして描き始めると、じっとその姿を見て、真似るようにして同じように腕を動かして大胆に描いていた。	
2月～3月	無			

資料2 1歳児のなぐりがきにおける模倣の記録 M: M園 K: K保育園

2006年度	模倣の有無	模倣の情報		備考
		子どもの情報	模倣の状況	
4月～11月	無			
12月15日	有③K	O: D.Y (男児) 2.6歳 C: O.R (男児) 2.6歳	・Yが「〇〇描いてんねん」と言って描くと、Rも「〇〇描いてる」と言って小さい丸やぐるぐるの丸を描き、同じような線になった。パスの色もYが「ぶどうする」と言うと、Rも同じ色を選んだ。	・日常生活でもYとRは一緒にいて、YがふざけるとRも同じようにふざけ、一緒にいることを喜んでいる。
1月11日	有④M	O: T.H (男児) 2.5歳 C: T.S (男児) 1.11歳	・SがHの絵をチラチラ見ているのは笑ったりして気にはしていたが、初めは模倣はなかった。しかし、Hがトントンし始めると、その音を聞いてSも同じ様にトントンを始めた。その後Hがグルグル描き始めると、Sも同じ様にトントンした上にグルグル描き始めた。	・お互いに保育時間が同じくらいで、一緒にいる時間が長いこともあってか、日常生活でもSはHの後をついていたり、一緒に遊びたいという思いが強い。
26日	有⑤M	O: T.S (男児) 2.7歳 C: M.N (女児) 2.3歳	・Sが車や電車が走っているようなイメージでパスを動かし、「走ります」と言いながら縦に伸びる線を描いていた。それを見てNも「走ります」と言いながら同じ様に紙の下から上へ縦に帯びる線を描いていた。	・言葉での理解ができるようになり、線のイメージと言葉が合ってみてがびったりきていたように思う。Nのほう喜んでしていた。
2月20日	有⑥M	O: M.N (女児) 2.3歳前出 C: R.U (女児) 2.4歳	・Sが車や電車が走っているようなイメージでパスを動かし、「走り	・言葉での理解ができるようになり、線のイ

0～3歳児の描画過程で子ども間の模倣は出現するか

			ます」と言いながら縦に伸びる線を描いていた。それを見てNも「走ります」と言いながら同じ様に紙の下から上へ縦に帯びる線を描いていた。	メージと言葉が合って見たてがびったりきていたように思う。Nのほう喜んでしていた。
2月20日	有⑥ M	O : M. N (女児) 2.3歳前出 C : R. U (女児) 2.4歳	・Nが「シュー」と言いながら縦の線を描き、「先生、見てー」と言ってきた。保育士が「描けたね」と言うと、それを見ていたUも同じように描き始め、保育士に同じ様に話した。 その後Uは3、4回同じことを繰り返し、「終わる」と言ってなぐりがきを終えた。	
3月	無			

資料3 3歳児の描画における模倣の記録 K保育園

2006年度	模倣の有無	模倣の情報		備考
		子どもの情報	模倣の状況	
4月、5月	無			
6月	無			・同じ様に腕を大きく動かしてなぐりがきする子は何人もいるが、模倣しているようには見えない。
7月	△		・絵の具で描くと最後には全員塗っていた。(特定の幼児に起こった現象ではない)	
8月、9月	無			
10月	有⑨  有⑩	O : A. F (男児) 4.1歳 C : M. K (男児) 4.6歳  O : D. T (男児) 4.4歳 C : T. Y (男児) 4.1歳	・Mは描き始めるのに時間がかかる。前でスイスイ描き始めたAのおたまじゃくしの絵を見て、よく似た形のおたまじゃくしを描いていた。 ・遠足に行ったときの話を話しながらDが、「信号あったな」と言いながら描き始めるとTも、「うん、そうや」と描いていた。マーカーで描いた緑、黄、赤の並びが同じだった。	・テーマ「おたまじゃくし」  ・テーマ「バスの絵」 ・Mは「よくしたい」と言う気持ちが強く、描画の場合には「描けへん」と少し自信なさげに見える。
11月、12月	無			
1月11日	有⑪  有⑫  有⑬	O : T. Y (男児) 4.6歳 C : S. H (男児) 4.4歳 C : R. N (男児) 4.6歳 O : N. M (女児) 4.8歳 C : I. H (女児) 4.8歳  O : D. T (男児) 4.7歳 C : M. K (男児) 4.9歳	・長いひげを波線で描いているのを見て、同じ様に曲がった線を楽しんで描いていた。 ・2人が同じ色の画用紙を取り、大きな大根を3本並べて描く。太さ、並び方が似ている。2人は喋りながら描いている。  ・描き始めに時間がかかるMはDが描いているのを見て描いていた。周りを囲む線が似ている。	・テーマ「ながいもさんとれんこんさん」  ・テーマ「大きなだいこん」 ・この2人は何事につけても興味がよく似ているが、特にIはNに憧れのような気持ちを持っている。Type 3

25日	有⑭ 有⑮ 有⑯	<p>O : S. I (男児) 4.1歳 C : J. S (男児) 4.4歳 C : K. Y (女児) 3.11歳</p> <p>O : A. F (女児) 4.4歳 C : K. Y (女児) 3.11歳 ⑭のCに前出</p> <p>O : N. I (女児) 3.11歳 C : M. N (女児) 4.0歳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sが線でしゅーっと線を1本引いて大根を描くと、同じ様に縦長の線を同じ様にたくさん描いていた。絵の具。</li> <li>・ Aが描いている女の子を見て女の子を描き、Aがおたまじゃくしを描いたらKもおたまじゃくしを描いた。</li> <li>・ Nが中を塗った●を描き始めると、楽しげに話をしながらMが同じ様な場所に描いていた。2人は向き合っていた。マーカー</li> </ul>	<p>・ 「仕掛けの絵」</p> <p>・ 例えばハートなどの記号のような形はMのほうがよく描いている。日常生活ではMがNを求めて遊んでいる。</p>
2月	無			
3月5日	有⑰	<p>O : N. M (女児) 4.10歳 C : I. H (女児) 4.10歳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年長児へのプレゼントのしおりにおたまじゃくしを描いたが、Oが顔を線で描き尾のみ中に色を塗ったのと同じものを描いた。おたまじゃくしの数や足のあるなしなど仕上がりは多少違ったままであった。</li> </ul>	<p>・ 「おたまのしおり」</p> <p>・ 日常からCはOに興味があり、同じ様に生活をすごしたがる。</p>

【写真】

0歳児の事例

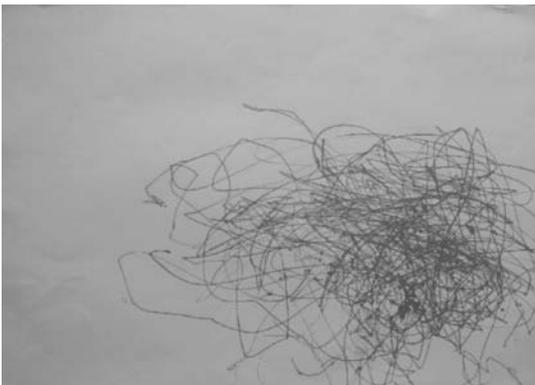


写真1-1 ①オリジナル



写真1-2 ①コピー



写真2-1 ②オリジナル



写真2-2 ②コピー

0～3歳児の描画過程で子ども間の模倣は出現するか

1歳児の事例



写真3-1 ③オリジナル



写真3-2 ③コピー

2歳児の事例

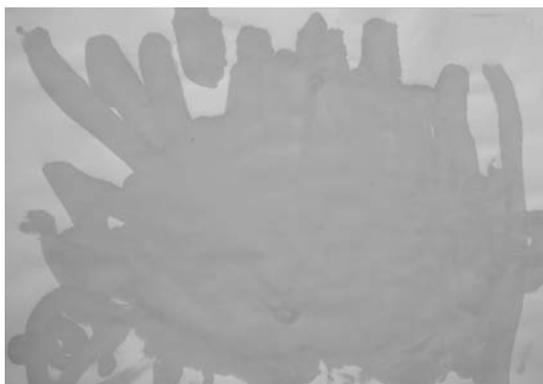


写真4-1 ⑥オリジナル



写真4-2 ⑥コピー



写真5-1 ⑦オリジナル



写真5-2 ⑦コピー

3 歳児の事例



写真 6-1 ⑩オリジナル

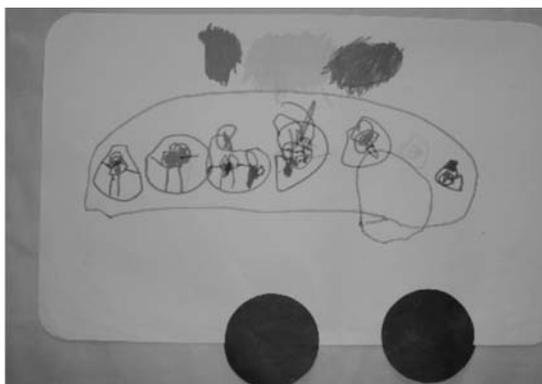


写真 6-2 ⑩コピー

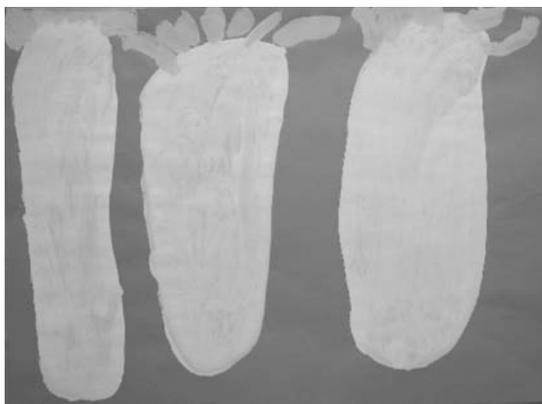


写真 7-1 ⑬オリジナル



写真 7-2 ⑬コピー

## Does 0-3 Years Old Child Imitate a Picture of Other Children by Drawing Process?

—The Examination from a Record One Year—

Oku, Misako\*

本稿は、ごく幼い時期の子どもが描画過程で他の子どもの模倣をするか、という問題に一つの答えを出そうとしたものである。これまで、模倣関係が明確にわかる対象年齢として4、5歳児を選択して子どもの描画過程における模倣の意味について実証的な研究を続けてきたが、より下の年齢でも描画過程で模倣が出現しているはずである。筆者は3歳児以下の子どもの描画の過程における模倣については、視覚的に捉えやすいフォルムやイメージの展開などを中心に、保育のプロセスで経験的な捉え方でしか確認できていない。そこで、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣の様相を観察・収集し、模倣が出現するか否か、出現したとすればどのような特徴があるのかについて検討し、0～3歳児の描画過程における子ども間の模倣を理解することを目的とした。4、5歳児の描画過程における模倣を継続的に調査した園の中の1園を選んで調査対象とし、0～3歳児における描画過程の模倣を2006年度1年間に渡って記録した結果を分析した結果、ごく幼い時期の子どもを除いて描画過程における模倣が出現することを確認した。また、3歳児については0～2歳児とは異なり、4、5歳児の描画過程における子ども間の模倣に近い様相を示すことを提示した。

キーワード：子どもの絵, 3未満児の描画, 模倣, 乳幼児の造形, 造形表現